

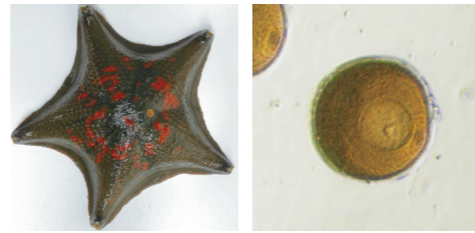
講義の紹介 No.1

～自然科学実験（生物学実験）～

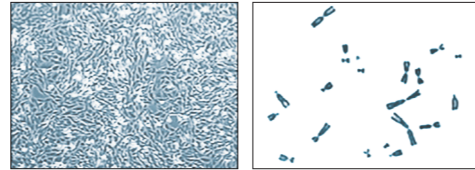
大学では、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や論理的な思考力などを涵養するために、教養教育が行われます。総合科学教育研究センターでは、様々なバックグラウンドを持つ教員が、それぞれの専門性に基じた科目を担当しています。

今回は、有吉健太郎准教授が担当している「生物学実験」(全学科必修科目の自然科学実験の1つ)について紹介します。

生物学実験では、1.ハムスターの細胞を使った染色体標本の作成・観察、2.ヒトの卵細胞における減数分裂の観察、3.アミノ酸の呈色反応を実習項目としています。細胞が分裂する際に出現する染色体や、ヒトの発生の際にみられる極体の放出(卵が成熟する過程でDNA量を減らす)などを観察・スケッチすることで、生物のダイナミックな仕組みに触れることを目的としています。また、アミノ酸の呈色反応(色として反応が現れる)を見つめることで、20種類のアミノ酸の持つ、それぞれ異なる性質を理解することを目的としています。



イトマキヒトデ(左)とその卵母細胞(右)



ハムスターの培養細胞(左)とその染色体像(右)

貸出案内

多目的ホール

多目的ホール(最大400人収容)は大学が関与する地域の交流事業などへの貸出が可能です。
▶詳しくは
事務室総務係(024-581-5504)
までお問い合わせください。



多目的ホール

案内情報

利用案内

図書室・エントランスホール

キャンパス内の図書室、エントランスホールは、現在、新型コロナウイルス感染予防のため関係者のみの利用としておりますが、将来的には一般の方も利用できるよう開放する予定です。利用できるようになった際にはご案内をいたします。

学部紹介動画

YouTube動画公開



保健科学部を紹介する動画を作成しました。YouTubeで公開していますので、ぜひご覧ください。

動画はコチラ▶



販売案内

お弁当販売

キャンパス内に学生食堂はありませんが、福島商工会議所のご協力により、授業のある日のお昼(12:00～13:00)時間中、エントランスホールでお弁当などの販売を行っております。一般の方も購入が可能ですので是非ご利用ください。



学部カレンダー

2022年4月→2023年3月

◆入学式◆

4月6日(水)

◆新入生オリエンテーション◆

4月7日(木)

◆開学記念日◆

6月18日(土)

◆オープンキャンパス◆

7月2日(土)

◆定期試験(前期)◆

8月1日(月)～8月5日(金)

◆夏季休業◆

8月8日(月)～9月22日(木)

◆光翔祭◆

10月8日(土)～10月9日(日)

◆冬季休業◆

12月26日(月)～1月6日(金)

◆定期試験(後期)◆

2月6日(月)～2月10日(金)

◆春季休業◆

2月13日(月)～

CALENDAR

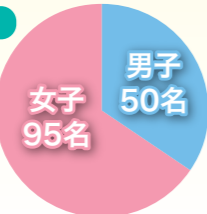
入試関連情報

〈令和4年度入学生の地域・男女別内訳〉(入学者145名)

地域別



男女別



広報副委員長 岡崎 可奈子

編集後記

令和3年4月にスタートした保健科学部も2年目を迎える学生の数も倍になりました。コロナ禍が継続する中で、新入生は遠隔授業からの開始でしたが、徐々に対面での授業も行われ、2年生では実習なども増えました。今号では、新着任教員や学生の学びの様子などを紹介しております。これからも、本誌を通じて学生・教員の様子をはじめ地域との交流など、保健科学部のありのままの様子を皆様にお伝えしてまいります。



福島駅前キャンパス外観

二期生を迎えて

保健科学部長 矢吹 省司



令和3年4月に開設された保健科学部ですが、1年が経ち令和4年4月二期生を迎えることができました。あっという間の1年間でした。一期生は、先輩がいないため大学生としての生活や勉強のアドバイスを聞くことができませんでした。また、試験でも過去問がないためどんな勉強をすれば良いのか不安を抱えながら頑張って1年間過ごしてくれました。今回二期生という後輩ができ、一期生の経験が二期生に伝えられていくはずで、これが積み重なっていくことで福島県立医科大学保健科学部の立派な伝統が出来上がっていくんだろうと期待しています。

さて、この文章を書いている今(令和4年8月5日)、全国的にCOVID-19(コロナ)感染の第7波の真只中です。本学の学生や教職員にも感染者が出ています。いくら注意し感染対策をとったとしても感染を完全に防ぐことはできません。でも、感染者が出て学生に不利益が出ないように、教職員一同工夫しながら授業や試験を進めています。ご家族の心配は尽きないところだと思いますが、みんなで協力してこのコロナ禍を乗り切っていきましょう。実習などでお世話になる病院や施設の皆様にも、ご迷惑をお掛けすることがあるかもしれませんが、何卒今後ともご指導の程、よろしくお願いします。

保健科学部の特色

教育環境

- 各分野に精通した経験豊富な教員を全国から招へい(67名)
- 医療機関等で実際に使われている高度な実習機器を導入

カリキュラム

- 県内唯一の特定機能病院である附属病院などにおいて、充実した臨床実習を実施
- 医学部・看護学部の教員も一部の授業を担当。より専門性の高い教育を受けられる体制
- 医学部・看護学部の学生との合同授業により、チーム医療を実践的に学べる
- 福島県の地域医療や災害医療を学べる



入学式

(令和4年4月6日)

ふくしん夢の音楽堂(福島市音楽堂)において、保健科学部新入生145名を含む医学部、看護学部、大学院の新入生396名を迎えて令和4年度入学式が開催されました。

竹之下学長から「自らが何を問われ、語れるのか、何を身に付けておくべきなのかを、今から考えながら、本学での学びをスタートさせてください。互いに切磋琢磨し、高め合いながら一歩ずつ前に進んでください。皆さんの健闘を祈ります。」と式辞がありました。



学生GPA※表彰式

(令和4年5月16日)

2年生に対し1年次のGPAが配布され、併せて令和3年度GPA表彰式が開催されました。各学科の学年1位となった学生1名が矢吹学部長より表彰され、賞状および副賞が授与されました。



《表彰された皆さん》

理学療法学科	菅 天音
作業療法学科	二瓶 明希
診療放射線科学科	相山 優香
臨床検査学科	小谷 斗彩

※GPA(Grade Point Average):科目ごとの成績をポイントに換算した数値を、単位数に応じて加重平均したもの

『福島県を知る』見学実習

(令和4年4月27日・5月11日)

本学部では福島県の風土や歴史、美術について理解を深めることを目的とした科目を設置しています。この授業の一環として1年生全員を対象に福島県立博物館の見学、鶴ヶ城付近のフィールドワーク、そして福島県立美術館の見学を行いました。

福島県立博物館で学芸員の講話の聴講や展示物の見学を行い、会津の街を自由散策し、会津の郷土料理「わっぱ飯」を味わった後、福島県立美術館では常設展や企画展などを鑑賞しました。これらの経験を通じて学生たちは福島県の多くを知ることができた様子でした。



鶴ヶ城の散策



学芸員の講話を聴講



学科代表者が感想を述べているところ



感染に注意し、会津の郷土料理を堪能

『チーム医療Ⅰ』

病院見学 (令和4年5月23日)

『チーム医療Ⅰ』では授業の一環として附属病院見学が組み込まれており、院内計9部署を半日ほどかけてラウンドしました。学生たちはこの経験を通してチーム医療の実際をより具体的にイメージすることができるとともに新たな刺激を受けた様子でした。



集中治療部の見学



放射線災害医療センターの見学

後援会活動紹介

新入生保護者と教員との懇談会

4月9日(土)に保健科学部後援会主催による令和4年度新入生保護者と教員との懇談会がオンラインで開催され、40名を超える新入生保護者の方にご参加いただきました。

当日は各学科の教員より、学科特性や4年間のカリキュラム、臨床実習に関する説明があり、大学での学びに対する具体的なイメージを持っていただきました。

また、学生の相談や健康に関すること(健康診断、新型コロナウイルス感染防止やPCR受検時の対応)、SNS利用についてなど、学生生活の留意点についての説明が行われ、貴重な交流の機会となりました。



福島駅前キャンパスからオンライン配信

オープンキャンパス (令和4年7月2日)

保健科学部開設から2回目となるオープンキャンパスが福島駅前キャンパスで開催され、299名の方にご参加いただきました。保健科学部の魅力を伝えるべく、今年度は昨年度より多くの在校生(1・2年生)が、準備から当日のイベントまであらゆる場面で主体的に協力してくれました。在校生の生の声を聞くことができる質問相談コーナーでは、どの学科も順番待ちがでる大盛況でした。将来の後輩たちに一生懸命説明する姿はととも頼もしく映りました。



筋電計測の説明(理学療法学科)



検査・治療の説明(作業療法学科)



教員への質問・相談コーナー



MRI体験の様子(診療放射線科学科)



顕微鏡を用いた検査体験(臨床検査学科)



先輩への質問・相談コーナー

地域連携の取組

福島学院大学との教員懇談会開催

5月26日(木)に福島学院大学(心理学研究科、福祉心理学科、情報ビジネス学科)と保健科学部との大学間連携に係る懇談会を開催しました。

各大学の学科概要の説明の後、教育・研究上の連携やサークル活動などに係る学生の交流について、意見交換しました。



星野彦福島学院大学副学長(前列左から3人目)と矢吹保健科学部部長(前列右から3人目)ほか、懇談会参加の皆さん



新着任教員紹介

中野渡 達哉 (講師)



出身は青森県です。宮城県、山形県で働いてきましたので、これで南東北3県の踏破となります。専門は運動器疾患系の理学療法で、特に下肢の病气やけがに対する理学療法の研究をしています。

遠藤 康裕 (講師)



田村市船引町出身で高校卒業後18年ぶりに福島県に戻ってきました。専門分野はスポーツ理学療法で、野球選手、障がい者スポーツ選手の障害予防に関する研究、トレーナー活動を行っています。福島県に貢献できるように頑張ります。

福島民報社とのコラボ企画 【1日1動!】 & 【1日1動!リアル体験教室】



令和4年5月30日(月)7面に掲載された新聞記事

福島民報社と保健科学部との共同企画「いだい×みんな健康ふくしまプロジェクト」の一環で、手軽に取り組みやすい健康づくりのための運動やストレッチなどを紹介する「1日1動!」が4月より紙面及びYouTubeで配信されています。

また、6月からは、第2弾として「1日1動!リアル体験教室」が県内各地で開催されており、本学科の教員も、講師として各地を訪問しています。



高橋先生と学生の撮影の様子



郡山市で講演する柴先生

掲示板で教員の研究情報を発信

理学療法学科の授業は主に校舎の5階で行われます。教員の研究内容や活動内容を知ってもらうために、5階の廊下に掲示板を設けました。卒業研究のゼミ配置は3年次の4月を予定していますが、多くの学生が各教員の研究内容に早くからふれ、興味を持ってもらえています。オープンキャンパスに参加された高校生も、立ち止まって見てくれました。



学生の声



一年次は思っていた以上に基礎科目が多く、「高校生活の延長だな」と感じていました。二年次になり専門科目が増えましたが、これまでの学習内容が活かされていると感じています(笑)。

保健科学部内は部活動・サークルが少ないので、縦のつながりも深められるように、今後みんなが入りやすいように裾野を広げていきたいです。

2年 八旗 拓実



レポート課題がありますが、初めの授業で「レポートの書き方」を教えてくれたので、大きく困ることなく、色々な授業に取り組んでいます。将来は高齢者分野に進みたいと思っているので、これからの専門科目を楽しみにしています。アカペラサークルに所属しているので、勉強もサークルも頑張りたいと思います。

1年 高久 響生



新着任教員紹介

浅尾 章彦 (講師)



山梨県出身です。昨年までは隣県の作業療法養成校で教員をしていました。福島県在住はもうすぐ10年になります。再開発中の福島駅周辺はもとより、これからも福島の魅力を見つけて出たいです。

川崎 伊織 (講師)



長崎県出身です。野球が好きです。これまで九州、関東で過ごし東北に来て11年目です。作業療法の素晴らしさを福島から世界に向けて発信していけるよう頑張ります。

松本 大典 (助教)



福島県田村市出身です。昨年度まで県内の医療機関で勤務していました。地域に根ざした活動に取り組んでいきたいと思っています。

学生交流会

4月、入学したばかりの1年生に福島駅前キャンパスをよく知ってもらうため、2年生主催の学内オリエンテーリングを行いました。1年生には案内図を片手に作業療法学科の実習室や図書館などを廻ってもらいながら、2年生が説明やクイズを行い、知識と親睦を深めました。



学びの様子

1年生は、解剖学や生理学などの基礎医学の学修に加え、籐細工や調理、レクリエーションなどの実習を行い、種々の作業活動が心身に与える影響を学んでいます。

2年生では検査法を学ぶ演習授業が始まりました。また学んだ知識と技術を早期から臨床の場で実践するため、教員引率のもとで県内のさまざまな病院・施設で実習を行っています。また飯館村との連携協定に基づく福祉施設での実習も始まっています。



学生の声



最近は専門的な知識だけでなく、技能を学ぶ機会が多くなってきました。また実際に臨床現場で対象者の方々に関わることを通して、知識の定着を実感するとともに、学ぶことへの喜びを感じます。将来へのイメージが膨らみ、モチベーションの向上にも繋がっています。

2年 吉田 真歩



毎日1限目から7限目までたくさんの授業が詰まっていて、こんなに覚えなければいけないという焦りを感じながら、友達とヒイヒイ言いながら勉強しています。しかし、どの授業で学ぶことも、全て自分がなりたいものになるために必要な知識ばかりなので、これからも努力していこうと思います。

1年 園部 彩花

診療放射線科学科

Department of Radiological Sciences

新着任教員紹介

広藤 喜章 (講師)



広島市出身ですが、昨年度までは名古屋で働いていました。医療情報学および放射線防護学の分野を専門としています。放射線被ばくによる人体への健康リスクについて情報学を取り入れた研究を行っています。

原田 崇臣 (助教)



出身は愛知県名古屋市です。平成27年4月から令和4年3月までの7年間、福島県内の病院に勤務しておりました。放射線治療に関する研究をしています。また、粒子線治療や放射線生物学に関する講義や学生実験を担当しています。

大葉 隆 (講師)



出身は福島県で診療放射線技師になります。本学光が丘キャンパスより異動してきました。専門は、原子力災害における放射線防護になります。本学では、原子力災害に対応できる人材育成を頑張っており、参ります。

三枝 高大 (助教)



出身は東京都です。専門は差異心理学であり、大規模調査による人間行動の個人差研究に従事しております。放射線の健康影響に関する風評を払拭するための活動に心理学者として携わらせていただいております。



臨床検査学科

Department of Clinical Laboratory Sciences

新着任教員紹介

梅澤 敬 (准教授)



私は臨床検査技師(細胞検査士)として東京慈恵会医科大学病院病理部に28年間勤務後、横浜市立みなと赤十字病院病理診断科に1年半を経て、4月より臨床検査学科に着任致しました。病理細胞診を担当します。

松田 将門 (助教)



新潟大学病院検査部で11年間、臨床検査に従事し、令和4年4月から本学科に着任しました。血液検査(なかでも出血や血栓に関する検査)やヒト脳機能に関する研究、臨床、講義、実習に携わっています。

飯島 順子 (講師)



理化学研究所、福島県立医科大学医学部・生化学講座勤務を経た後、令和4年4月より本学科に着任しました。分子生物学や生化学に関する実習、講義を担当します。また、認知症などの基礎研究を行ってゆきます。

丹野 大樹 (助教)



福島市松川町出身です。幼稚園から高校までこの福島の地で育ち、大学・大学院卒業後は福島医大附属病院にて臨床検査技師として勤めてきました。担当科目は、臨床微生物学、血液検査学です。

学生交流会

新型コロナが落ち着いた4月20日(水)に1・2年生の学生交流会を開催しました。学生数名と教員を交えたグループを作り、密にならないよう配慮しながら授業や学生生活について談笑し、ゲームなどして交流を深めました。皆との和やかな時間がやっと流れたなと感慨深いものがありました。



オープンキャンパス

7月2日(土)に高校生を対象としたオープンキャンパスを開催しました。1・2年生、教員合わせて総勢38名が趣向を凝らし、診療放射線技師の仕事の分かりやすく、楽しく高校生に理解してもらうために頑張りました。丸くなって取り組んだことで教員・学生同士も一段と仲良くなったと思います。

学生たちの斬新なアイデアや秘められた能力を垣間見て、教員は驚くばかりでした。



学生交流会

2年生の企画運営による1・2年生の学生交流会を開催しました。2年生が講義や部活動・サークル活動など学生生活全般



について実体験をもとに話し、その後少人数のグループを作りフリートークを行いました。

学びの様子

2年生になり専門教科の講義と実習が始まりました。採血実習では装着式採血静脈キットで練習を重ね、最後には



臨床検査総論実習・採血実習

学生同士で実際の採血をすることができました。緊張した顔から、成功後の笑顔への変化が印象的でした。

オープンキャンパス

7月2日(土)に高校生を対象としたオープンキャンパスを開催しました。教員と在学中の1・2年生が協力し、病院で実際に行われている臨床検査を、高校生に体験してもらいました。1・2年生は講義で学んだことを活かし、高校生にわかりやすく説明してくれました。また、高校生からの質問や相談にも真摯に対応してくれ将来の後輩の入学を心待ちにしている様子でした。



尿検査(上)と顕微鏡検査(下)の体験の様子

学びの様子

『医用工学実験』(2年生)では、学生3~4名が1グループとなり、回路を組んで電気・電子回路の仕組みを理解し体得しています。写真は、この実験の最終テーマ

であるロボット製作の一幕です。学生たちは初めて扱うロボット制御ソフトウェアに悪戦苦闘しつつも、興味津々に取り組んでいました。

